



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1939, 19(222): 374-380

ISSUE DATE:

1939-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167877>

RIGHT:

観測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (96)

課長 小 槇 孝 二 郎

本十月の流星界は先づ下旬のオリオン、双子の流星群が主要位置を占める。本年は20日が上弦に當るので観測條件が最良とは云ひ得ないが、極大時期たる20日～24日頃は夜明前の數時間は月光の妨害なく充分観測出来る。昨年は一時間平均30個以上の豊富な出現を見たものがあるので本年も一層の注意を拂ひたい。又この外10日頃のジャコビ＝流星群や本月から十一月にかけて火球を伴ふ牛座 β の流星群が活動する。特に後者は短週期流星群として最近話題に上つてゐるものなので一般會員の観測を希望する。

× × × ×

さて前回報告後到着した観測は

吉 井 耕 一 氏 (本年五、六月及び八月の概略報告)

森 安 千 秋 氏 (八 月 分)

川 人 武 正 氏 香川県三島郡笠田村 (八月分)

の諸氏のものである。

八月4日～6日に其の出現を豫想されたハセル岡林彗星に伴ふ鯨座流星群は山本會長、吉井、森安、川人の諸氏及小槇によつて注意されたが、4日朝川人氏が4個それらしきものを見た外はみな殆んど何ものも見てゐない。月光の爲光度4等以下の流星は観測困難であつたとは云へ、この結果から同流星群出現の確實性は疑はれないでもない。だゞ、去る1932年アリゾナ観測隊が八月3日夜に観測した輻射點中これに近いもの($\alpha=10^\circ$, $\delta=-10^\circ$)の存することは注意すべき事であらう。

ペルセウス流星群の観測結果は吉井氏の概略報告以外は入手してゐないが、同氏と筆者の得た極大前後數日同のペルセウス群のみの出現程度は次表の如きものであつた。

日 付	一時間平均数(吉井)	同 左 (小横)	同左修正値(小横)
10—11	4	6.0	8.6
11—12	7	15.0	18.8
12—13	30	22.0	24.4
13—14	15	14.0	17.5
14—15	12	10.5	15.0
15—16	7	5.6	6.3
16—17	3	—	—

極大は明らかに13日朝にあつたのである。又吉井氏は同月12日に4個、14日に1個の流星寫眞の撮影に成功されてゐる。(VIII 31, 1939)

★ 太 陽 課 (1939年8月)

報告者 12名(前月より1名減)

天 候 近畿以西は、百五十年振りと云ふ旱天に悩んだ程であつただけ、個人別に見ても、充分とは云へない迄も、可なり觀測日数は増加した。全員で補へば勿論缺測日はない。然し筆者の(半ば推定ではあるが)滋賀縣に於ては全を通じて觀測可能であつたらしい。珍らしい好晴であつた。

概 況 前月に比較して再び2~3割方平均相對數は増加した。今春と大體同程度であり、肉眼黒點の出現は盛んであつた。

肉眼的黒點	坂上	津留	島崎	木邊	正村	すばる會	計
觀測日數	20	16	9	24	17	19	105
出現日數	12	16	8	12	16	4	68
黒點群數	4	6	5	4	7	2	7
累計黒點數	13	19	8	12	22	4	78

報告が澤山來たのを喜ぶ。6名の平均に依れば、觀測日數に對する出現日數の比は0.65で、前月と大差ない。何分觀測者に異動があるから、直ちに此の數字を當てにする事は出來ないが、活況を呈した事は確かである。

猶ほ報告法は、正村氏のが正確である。

南北兩半球の比較	津留	木邊	杵掛	すばる會	阿部
南	54.9	73.9	89.2	65.4	57.3
北	53.4	62.3	62.9	58.9	56.4

平均に依れば南1.00に對し北0.83、即ち南55%、北45%となり、前月よりも

黑點相對數報告 (1939年8月)

觀測・者 (觀測地)	坂上 務(福岡市大名町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	岸上 智(香川縣觀音寺町)	織田 太郎(大阪市明星商業)	木邊 成廣(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	降旗 常雄(長野縣常磐村)	香掛 七二(長野縣青木村)	すばる會(橫濱市)	小石久太郎(東京市神田區)	阿部 正明(東京市池袋)	片山 八郎(東京市立一中)
口徑 mm	40 102	130	58	76	75	25	55	150	102	50	58	32	50
倍率	32 61	45	40	75	60	48	64	65	75	50	64	45	32
1	79	曇		曇	旅	曇	53	122	69	76	旅	曇	
2	雨	雨		98	78	51	曇	139	103		曇	曇	
3	雨	雨		76	84	45	曇	143	曇	90	69	雨	雨
4	84	80		88	旅	44	曇	缺	缺		雨	雨	雨
5	76	曇		曇	曇	曇	89	122	122		雨	雨	雨
6	曇	曇		旅	缺	曇	85	曇	曇	103	78	96	96
7	曇	曇		曇	92	曇	曇	曇	曇	100	100	106	106
8	112	曇		曇	143	曇	曇	曇	曇	141	123	115	115
9	133	曇		曇	181	曇	曇	曇	198		旅	曇	曇
10	曇	135		曇	188	曇	曇	150	210		曇	曇	曇
11	135	雨		曇	170	曇	曇	曇	201	201	曇	曇	曇
12	151	曇		曇	182	115	140	133	230	178	曇	164	164
13	154	旅		曇	187	缺	雨	曇	224	176	曇	180	180
14	旅	曇		156	180	曇	曇	149	180	160	曇	曇	曇
15	112	113		161	184	曇	130	167	缺	157	106	140	140
16	旅	136		148	141	107	138	157	160	154	95	151	151
17	176	150		119	119	曇	141	雨	165	146	142	149	149
18	131	141		125	119	曇	106	110	179		106	126	126
19	155	124		94	170	曇	雨	曇	曇		118	雨	雨
20	136	138		旅	148	62	曇	163	143		雨	曇	曇
21	120	113		曇	缺	曇	曇	151	曇		105	104	104
22	113	曇		曇	110	曇	曇	190	116	112	93	曇	曇
23	92	82		曇	旅	曇	曇	154	曇	92	86	74	74
24	曇	95		雨	曇	曇	曇	204	曇		曇	曇	曇
25	116	曇		曇	曇	48	曇	173	119	87	83	87	87
26	121	87		114	曇	60	116	142	140	96	84	99	99
27	雨	雨		曇	曇	72	140	110	110		98	旅	旅
28	曇	曇		曇	曇	70	155	79	81	76	77	80	80
29	曇	曇		53	65	59	53	曇	曇	103	76	60	60
30	91	53		曇	79	缺	70	145	151	112	87	81	81
31	旅	73		曇	缺	缺	80	154	151				
觀測日數	19	14		11	19	10	15	19	20	19	19	16	
一日平均	120	109		112	136	65	94	152	152	124	95	114	
前月平均	85	80		87	111	63	68	123	134	—	73	90	

更に南に偏したらしい。(各人比較的よく揃つた)

其他 沓掛氏により各黒點群の概略緯度の報告があつた。又津留氏に依り高緯群の報告(急報所載)があつたが、右は16日東端より出現した小群で、沓掛、津留兩氏共に南 30° と測定された。猶すばる會(責任觀測者 堀田氏)よりは大黒點群のスケッチ送付があつた。

追加報告 坂上氏1939年7月分肉眼的黒點觀測報告22日中11日出現4群計18個との報告受理。

訂正 前號の相對數表中、坂上氏29日缺は曇りと訂正。(木邊記)

★ 遊 星 面 課 (1939年8月)

觀測報告は8月に入つて激増した。一々見取圖受領數を報告すべきであるが、協同觀測終了の10月末(誌上では11月號)に纏めて發表する故御諒承を乞ふ。見取圖總計162枚。

新觀測者として、東京市の山根平三氏、横濱市の堀田泰生氏、大阪市の西森紀久雄氏、同大口周作氏、大阪支部諸氏の加入を見ました、今後も増加の見込。

火星近況——豫想通り南極冠はグングン縮少し、8月の下旬には急激に縮少して、30日夜の觀測では、約10度位の擴りしか無い。又、其周邊も、所々缺け込み等が出來てゐる。去る8月20日夜、南極冠の北方に隣接して長三角形の黄白色の部分が見られ、雲か或は極冠に關係したものか又は、火星面直接に現れたものか不明で、其後も觀測を續けたが、どうやら雲ではなく、アルヂレⅡが特に著しく、黄白色を呈したものではないか……と感じられたが其後、自轉の都合で見難くなつたので疑問のまゝ一先づ打切り、次の機會を待つ事とした。

北極冠は其後其大きさ光輝色彩等に大した變化無く、Diskの下端に輝いてゐるが、餘り目立たず、8纏級には稍々見難い。これは中央緯度が南に偏し従つて北極附近が像の向ふ側へ廻つてゐる爲で、事實は、頗る美しく大きく輝いてゐる筈である。

運河は見難いが、併し、良シイイングさへ得られたら相當見られる。

南半球一帯の海洋部は、本年は非常に淡く、10度邊から170度邊迄の南海は、非常に淡く感じた。

變光星觀測結果概況 Results of Observations of Variables.

RS Cnc (RV Tau型)	242	9288.4 12.8 Kb	4014.0 8.6 Kb
1939 III~V (9 Est.)	9265.9 6.8 Yd	9300.2 < 11.8 Sn	19.0 8.9 Ob
242	66.9 6.5 "	39.1 9.7: Kb	" 9.0 Kb
9332.0 6.1 Ob	72.9 6.7 "	42.0 9.8: "	20.0 9.0 Ob
36.0 6.0 "	75.9 6.7 Si	49.1 9.8: "	21.0 9.0 Kb
36.9 5.7 "	77.9 6.5 Yd	51.0 9.4: "	24.0 9.1 Ob
42.9 5.8 "	82.9 6.5 "	60.0 9.4: "	29.0 9.0 "
99.0 6.0 "	84.0 6.7 Si	62.0 8.9 Ob	" 9.2 Kb
9400.0 6.1 "	87.9 6.5 Yd	63.0 9.1 "	31.0 8.7 "
1.0 6.1 "	89.0 6.7 Si	64.0 9.0 "	34.0 8.8 "
3.0 6.2 "	α Cet (Mira 型)	65.0 9.1 "	V CVn (Mira 型)
4.1 6.1 "	1939 I~II (10 Est.)	65.1 8.4 Kb	1939 II (3 Est.)
γ Cas (Irr.)	242	67.0 8.7 "	242
1939 I~V (10 Est.)	9272.9 7.4 Yd	68.0 8.7 "	9310.1 7.6 Ot
242	74.0 7.9 Si	69.0 9.1 "	13.0 7.5 "
9274.0 2.7 Kb	75.0 7.7 "	71.0 9.1 "	21.0 7.6 "
78.9 2.7 "	77.9 7.9 Yd	72.0 8.5 Kk	W Cyg (Irr. ?)
87.0 2.6 "	82.9 7.8 "	78.0 8.6 Kb	1939 I (6 Est.)
9301.9 2.7 "	87.9 7.9 "	79.0 8.4 "	242
12.9 2.7 "	89.9 8.2 Si	82.0 8.5 "	9265.9 6.0 Yd
23.0 2.8 "	9301.9 8.4 "	86.0 8.2 "	69.9 6.3 "
36.9 2.8 "	4.9 8.5 "	93.1 8.2 Si	72.9 6.1 "
41.0 2.8 "	5.1 8.4 Yd	94.1 8.9 Kb	77.9 6.2 "
9401.3 2.7 Ob	S CMi (Mira 型)	97.0 8.4 "	87.9 6.5 "
34.3 2.7 "	1939 I~II (7 Est.)	98.0 8.4 Ob	91.9 6.3 "
T Cen (Mira 型)	242	99.0 9.0 "	TT Cyg (Irr. ?)
1939 V (6 Est.)	9272.1 8.5 Sn	" 8.3 Kb	1939 VI (3 Est.)
242	74.0 8.6 Ss	" 8.5 Si	242
9393.0 6.7 Si	76.0 8.8 Sn	9400.0 9.0 Ob	9429.0 8.4 Ob
40.0 6.5 Ob	84.0 9.7 Ss	" 8.2 Kb	32.1 8.4 "
1.0 6.3 "	81.1 9.6 Sn	1.0 9.1 Ob	34.0 8.1 "
1.1 6.5 Si	9301.9 9.7 Ss	1.1 9.1 Si	S Dra (RV Tau 型 ?)
3.0 6.1 Ob	17.0 10.0 "	3.0 9.0 Ob	1939 VI (6 Est.)
3.0 6.1 Si	R CrB (Irr.)	" 8.6 Kb	242
T Cet (Irr. ?)	1939 I~VI (49 Est.)	" 9.1 Si	9419.0 8.3 Ob
1939 I (9 Est.)	242	4.0 9.0 Ob	20.0 8.0 "
	9286.4 12.8 Kb	5.0 9.3 Kb	
		10.0 8.8 "	

9424.0 8.0 Ob	9400.0 7.5: Ob	9287.0 14.0 Kb	9303.0 8.5 Si
29.0 8.1 "	01.0 7.5 "	9301.9 14.0 "	11.0 8.3 "
32.1 8.1 "	03.0 7.5 "	12.9 14.2 "	16.9 8.2 "
34.0 8.4 "	04.1 7.4 "	R Leo (Mira 型)	18.9 8.3 "
R Gem (Mira 型)	19.0 7.5 "	1939 I~VI (19Est.)	21.0 8.3 "
1939 II~IV (9 Est.)	20.0 7.3 "	242	22.9 8.3 "
242	24.0 7.5 "	9274.1 6.6 Ot	23.0 8.6 Kb
9284.1 6.5 Ot	29.0 7.6 "	77.0 6.7 "	25.0 8.4 Si
9305.0 6.9 Yd	32.1 7.6 "	80.0 6.9 "	31.0 8.5 "
40.0 7.7 "	34.0 7.5 "	83.0 7.1 "	31.9 8.4 "
42.0 7.6 "	DO Her (Nova)	87.0 7.2 "	40.9 8.0 "
46.0 8.1 "	1939 III~VI (10Est.)	96.3 7.4 "	43.0 8.2 Kb
48.0 8.1 "	242	9302.0 7.5 "	44.0 8.2 "
49.0 8.1 "	9349.2 9.3 Kb	05.1 7.4 "	49.1 8.2 "
62.0 8.1 "	65.1 10.0 "	10.0 7.7 "	54.0 8.0 "
64.0 8.0 "	97.0 9.4 "	16.2 7.7 "	59.9 7.6 Si
TW Gen (?)	9403.0 9.7 "	20.9 8.6 "	60.0 7.2 Kb
1939 IV (2 Est.)	05.9 9.8 "	37.0 9.2 Ob	62.9 7.5 Si
242	10.0 9.9 "	65.1 9.5 "	68.0 7.4 Kb
9362.0 8.3 Yd	18.0 9.8 "	78.1 9.6 "	71.0 7.3 "
64.0 8.1 "	21.0 9.6 "	98.0 9.6 "	82.0 8.0 "
η Gem (Mira 型)	31.0 10.0 "	9403.0 9.6 "	86.0 8.1 "
1939 I~IV (9 Est.)	34.0 9.9 "	21.0 9.5 "	RY Mon (Mira 型 ?)
242	R Hya (Mira 型)	24.0 9.4 "	1939 I~IV (10Est.)
9273.9 3.3 Mi	1939 I (1 Est.)	29.0 9.3 "	242
85.1 3.7 Ss	242	U Mon (RV Tau 型 ?)	9273.0 8.8 KZ
88.0 3.3 Mi	9266.4 6.8 Ot	1939 II (5 Est.)	90.0 8.8 "
9302.9 3.4 "	V Hya (Mira 型)	242	9302.9 8.9 "
08.9 3.7 Ss	1939 III~IV (4 Est.)	9301.9 5.6 Ot	13.9 8.9 "
17.0 3.7 "	242	07.9 5.9 "	45.9 9.0 "
30.0 3.4 Mi	9346.1 8.1 Yd	11.0 6.2 "	62.0 9.0 "
34.0 3.5 "	48.1 8.4 "	17.0 6.4 "	63.0 9.1 Ob
71.0 3.9 "	49.1 8.4 "	21.0 6.6 "	64.0 9.1 "
AC Her (RV Tau 型)	61.0 6.5 Sn	X Mon (Mira 型)	64.9 9.0 Kz
1939 V~VI (12 Est.)	CP Lac (Nova)	1939 I~V (25 Est.)	65.0 9.2 Ob
242	1939 I~II (4 Est.)	242	
9398.1 7.6: Ob	242	9276.1 9.0 Si	
99.0 7.5: "	9273.9 13.8 Kb	84.1 9.0 "	
		90.0 9.0 "	

★ 彗 星 課

急報で明らかな如く、又々タトル彗星が見つかつて、今年初以來の彗星は合計10ケとなつた。即ち：

順 序	發 見 者	星 名	發見の日
1939 a	コジク氏, ベルテヤ氏	(新)	一月17日
1939 b	ヴ イ サ ラ 氏	(新)	二月 8 日
1939 c	ジ エ フ ア ス 氏	ボン, キンネケ	三月17日
1939 d	ハセル氏, 岡林氏等	(新)	四月15日
1939 e	ワンビスブルク氏	コ ブ	四月22日
1939 f	ジ ャ ク ソ ン 氏	ジヴスマン, ワハマン	六月12日
1939 g	ジ エ フ ア ス 氏 等	第二ブルクス	六月17日
1939 h	リ ゴ レ イ 氏	(新)	七月28日
1939 i	カ ミ ン ス キ 氏	(新)	七月24日
1939 j	ジ エ フ ア ス 氏	タ ト ル	八月12日

尙ほ此の他に、ボレリ(急報359), フルフ(急報376), ジャコビ I = (急報380)の三彗星が近づいて來てゐるから、誰かに發見されるだらう。

リゴレ I 彗星については、メラ I, カスタ I, ラ I ペ, マクスエル, パノフスキ諸氏等が算出した楕圓軌道要素が今までに發表されてゐる。即ち、

	Möller 氏	Kaster 氏等	E. Rabe 氏	A. D. Maxwell 氏	H. A. A. Panofsky 氏	1788 II
T	1939年8月 9.4070	9.198	9.0248	9.117	9.28121	—
ω	28°37.0	28°53'	28.5209	28°42'	29°02.4	30.439
Ω	355 03.0	355 19	355.0670	355 17	355 30.0	352.484
i	65 37.0	63 56	63.5395	63 55	64 14.1	64.468
q	0.74986	0.7499	[9.875178]	0.7503	0.74986	0.7574
Eq	1939.0	1939.0	1939.0	1939.0	1939.0	1788.0

米國のカニンガム氏は此のリゴレ I 彗星は百五十年前に現はれた 1788 II 彗星と同じものだらうとの意見を出してゐるので、上表に此の彗星の軌道要素をも掲げて見たが、なるほどよく一致してゐる。

今後も尙、既知未知の彗星搜索のため、讀者諸氏の御奮闘を望む。それらしいものを發見されたならば、早く下名へ御知らせ下さい。歐州は戦争中ですが、吾々とコペンハーゲンとの連絡は今尙完全に有ります。